

児童が力を発揮できることをめざした通級指導教室での取り組み

二本松市立岳下小学校

教諭 平山 真由美

1 実践の内容及び方法等

本通級指導教室は、令和4年4月に、通級指導教室(自閉症)として設置された。二本松市内でも特別支援教育へのニーズの高まりが見られるなか、通級指導教室が「多様な学びの場」の一翼を担い、市内の特別支援教育の充実を推進することが期待されている。設置から4年目となり、市内での通級指導への認知度や理解も広がりつつある。本教室には自校児童・他校児童(市内5校)合わせて20数名が通級し、在籍校・家庭・通級指導教室とで連携を図りながら、自立活動の指導を実施している。

(1) 一人ひとりに応じた指導をめざして

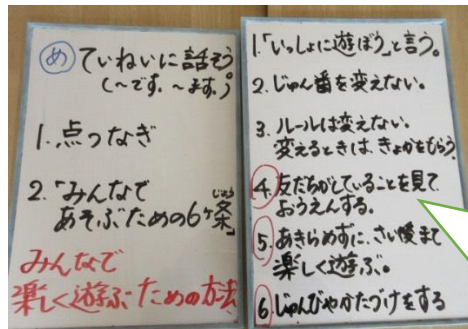
「通級による指導とは、特別支援学校の自立活動に相当する指導とされ」※1、「特別支援学校の学習指導要領で示す自立活動の内容は」、「個々の幼児児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うもの」※2となっている。また、多くの児童が週1単位時間程度の指導となっており、児童の状態を把握し指導内容を精選して計画的に指導を行うことが求められている。

そこで、児童の実態を把握するために、保護者や学級担任等と面談や在籍学級の授業参観を行ったり、諸検査の結果を分析したりして、総合的な状況を把握するように努めている。

また、児童の言動を捉える際には、行動自体が望ましいものでなかった際にも、その児童の行動の背景や理由を捉え、理解しながら関わっていくことを大切にしている。1対1での個別指導の機会を生かし、児童が安心して思いや考えを表出できるように促し、それらを尊重する姿勢で関わることを心掛けている。そして、児童が「困ったな。」「うまくいかないな。」と感じている具体的な事柄に関して、どう行動したらよいか、うまくいく方法は何か等を児童と一緒に考え、在籍学級等で行えるように練習を行ったりするようにしている。

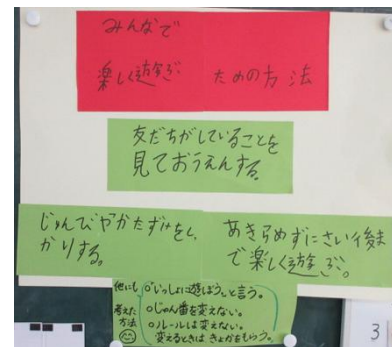
【人とのかわわりに関する指導】

～マイルールを主張してトラブルとなる児童



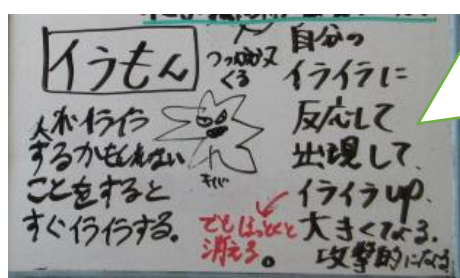
話し合ったことはホワイトボード記入

教室に貼って、みんなにも
知ってほしい。
守っていききたい。



在籍学級教室後方に掲示し学級で共有

【自己の特性の理解に関する指導】



自分のイライラを
「イラモン」と名付ける。
特性を分析し、対応を考
える。

【円滑に体を動かせるようにする指導】



イラストを真似る。
「ヒー」の声掛けでタ
イミングよくポーズ

※1 「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引」平成30年8月20日発行 文部科学省
海文堂出版株式会社

※2 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)」
平成30年3月30日発行 文部科学省 開隆堂出版株式会社

(2) 在籍校・家庭・通級指導教室の連携をはかる

通級指導では、児童が自信をもって在籍学級で取り組み、自分の力が発揮できるようになることを目指す。指導の効果を高めるには、在籍学級担任や保護者と連携を図ることが大切になる。

在籍校訪問～授業参観・学級担任等との懇談

在籍校訪問を、集団の中での児童を知る貴重な機会として位置付け、年2回(6月・10月)実施している。個別指導時には見られない言動や友達との関わり方等から、指導すべき課題が見えてくることも多い。また、学級担任との懇談では、授業参観での見取りと課題を対面で話し合っている。学校生活を送るうえで育みたい力や支援・指導の方向性の共有を図る貴重な機会と考えている。

連絡帳の活用～在籍学級(在籍校)・保護者・通級指導教室での情報共有

通級教室での指導内容やその様子は、連絡帳で在籍学級担任と保護者に知らせている。児童が意欲的に取り組む姿や適切な行動を伝えることで、在籍学級や家庭での称賛を促すとともに、在籍学級や家庭での支援に繋がることを期待し、課題や活動内容、手立てや配慮した点等を具体的に書くようにしている。

連絡帳には、在籍学級担任や保護者にも書いていただく欄を設け、無理のない範囲で記載を依頼している。児童は、在籍学級や家庭では、通級指導教室とは違う姿を見せることもあり、連絡帳には、児童の不適切な言動やそれらに対する担任・保護者の困惑や悩み等の記載も見られる。それらの記載は、担任・保護者からのSOSサインであると捉え、指導すべき課題・改善が求められる事柄として対応するようにしている。また、学級での頑張りや家庭で成長を感じたこと等の記載も多く、通級指導担当から「こんなことが書いてあったよ。」と児童に紹介すると、児童は大変嬉しそうな表情を見せる。通級指導担当が仲介することになるが、児童は、褒められた・認められていると感じ、学級担任や保護者との信頼関係を深め、児童自身の自己肯定感を高めることに繋がっている。

【在籍学級担任の連絡帳から】

△友だちとケンカ

△自分から謝ることが難しい

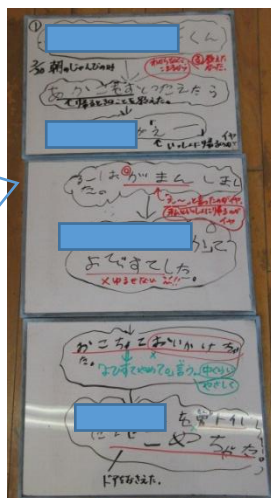
➡通級でも振り返る

時系列に自分の言動を書く。
「〇〇(呼び捨て)」が嫌だった。
しつこく追いかけたことは悪かった。

➡伝え方・謝り方を考えてリハーサル

「〇〇してごめんなさい。もうしないようにするね。」
「呼び捨てはしないでほしいの。」

➡在籍学級で、友だちと仲直り😊



【通級指導連絡帳から】

○「手順表を見ながら、クリスマスの飾りを作ることができました。」



➡「先生役になってもらってクラスでも作りたいです。」担任

➡先生役でクラスでも作成😊

(3) 通級指導教室の充実をめざして

二本松市内には、「ことばの教室(1校)」と「そだちの教室(2校)」がある。令和4年度に、設置校長と通級指導教室担当者で「二本松市通級による指導研究会」を立ち上げ、担当者研修会や月例会等を行っている。これらを通じて、通級指導担当者の相互交流を図るとともに、通級指導教室の運営やケーススタディ等の研修等を行い、指導力の向上を図っている。

担当者研修会

令和7年度は、第1回(4月開催・総会含む)・第2回(8月末開催・福島市内通級指導教室担当者による講演会)・第3回(12月開催・事業報告含む)を開催した。また、【二本松市 通級指導教室リーフレット】を二本松市教育委員会と作成して市内の小学校等に配付し、通級指導教室への理解・支援を促している。

外部講師(他地域で通級指導を担当される先生)をお迎えしての研修⇒



二本松市 通級指導教室
「ことばの教室」 「そだちの教室」

二本松市には、通級による指導「そだちの教室」と「ことばの教室」があります。通級による指導のシステムを活用して、学習や生活に難しさを抱えたお子さんたちが、主体的にその困難を改善・克服できるよう支えています。

**二本松市の
通級教室**

【ことばの教室】
二本松市立二本松南小学校
〒964-0911
二本松市大塚175-1
TEL 0243-23-3334

【そだちの教室 あおぞら】
二本松市立合下小学校
〒964-0891
二本松市大塚175-1
TEL 0243-22-0269

【そだちの教室 さくら】
二本松市立油井小学校
〒969-1404
二本松市油井字台5
TEL 0243-22-0206

二本松市教育委員会

Q どのようなお子さんが対象となりますか。

〈ことばの教室〉	〈そだちの教室〉
<ul style="list-style-type: none"> ○正しく発音することが難しい。 →魚→「タカサ」 お母さん→「オウダグン」など どのように言ったかで発音してしまう。 ○ことばがはっきりしない。 ○話すときに繰り返したり、つまったりする。 ○耳の聞こえ方に心配がある。 ○ことばの発達が気になる。 ○ことばの理解力が年齢に比べてゆっくりである。 ○思っていることをことばで言い表すことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとの関わりがうまくもない。 ○集団行動が苦手である。 ○こだわりが強く、次の行動に移ることが難しい。 ○物事に集中して取り組めない。 ○落ち着きなく、じっとしてられない。 ○忘れ物が多かったり、整理整頓が苦手であったりする。 ○手先を使った細かな作業や走ったりボールを投げたりする大きな動きが苦手である。 ○学校など特定の場面で話すことができない。 ○読み書きや計算等、特定の分野の学習が苦手なところがある。

Q どのような指導を受けるのですか。

〈ことばの教室〉	〈そだちの教室〉
<ul style="list-style-type: none"> ○語音の聞き取り、弁別する力を高める学習。 ○正しい構音法を身に付ける学習。 ○日常生活の中でも正しい発音が発音できるようにする学習。 ○話すことや読むことに対する不安 感を軽減し、気軽に話すことのできる場を作り、話すことや読むことの楽しさを味わう学習。 ○日常生活に必要な読解力や文法を理解する力を身に付け、スムーズなコミュニケーションを行うことができる学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ○こだわりの癖を応げるトレーニングとして、ゲーム等を行う。 ○トラブル回避の方法としてイライラしたときの対処法を考へ使ってみる等の学習。 ○自分の感覚や認知の特性を知り、心地よい方法を身につけて活用していくことの学習。 ○感情マークや怒りの温度計等を用いて、自分の感情や相手の感情について関心をもち 読み取る学習。 ○対人関係を円滑にするためのSST等。 ○上記のような学んだ知識・技能を一般化する場面として、グループ指導の中でゲーム 等を通して実際に使ってみる等。 ○自分の認知の特性に合った読み方、書き方を知り、方法を身に付ける学習。

【二本松市 通級指導教室リーフレット】(一部)

月例会

通級指導教室担当者が、開催月の第1木曜日に事務局校に集まり、通級指導教室運営上の課題や自立活動の指導、在籍校等との連携の仕方等について、情報共有や相談・協議を行っている。毎回、通級指導に関わる書類の作成の仕方、「個別の指導計画」の作成と評価、個々に応じた指導内容・教材、児童・保護者との関わり方等、日々の指導の中での疑問や悩みがざっくばらんに語られ、互いの実践や経験から意見したり助言を受けたりする貴重な機会となっている。

2 実践の成果

(1) 一人ひとりに応じた指導をめざして

一人ひとりの実態を把握する際、保護者や学級担任等と面談・懇談や在籍学級の授業参観、諸検査の結果の分析等を行うことで、総合的な状況を把握することができた。また、児童の言動を捉える際には、その児童の行動の背景や理由を考えることで、児童理解と手立ての検討に繋げることができた。児童は、周囲からの刺激が少ない状況で、個別に指導を受けることで、達成感を感じたり成功体験を積んだりすることができた。指導時に、在籍学級や家庭でのトラブルを振り返って状況を整理したり、友達との関わり方を具体的に考えたりして練習する機会を設けたことで、児童が在籍学級や家庭で実際に行う姿が見られるようになり、通級での指導内容が、在籍学級・家庭での実践に繋がりがつつある。

(2) 在籍校・家庭・通級指導教室の連携をはかる

在籍校訪問は、集団の中での児童を知る貴重な機会となり、個別での指導時には見られない言動や友達との関わり方等から、児童に指導すべき課題を探ることができた。学級担任との懇談では、授業参観での見取りと課題を対面で話し合うことにより、学校生活を送るうえで育みたい力や支援・指導への方向性を確認・共有する貴重な機会とすることができた。連絡帳を通して、在籍学級担任・保護者・通級指導教室担当者間で、通級指導の内容や手立て、児童の成長や課題等を共有することができた。対面による情報共有が難しい中で、連絡帳は通級教室での指導内容や支援の方向性を決定する貴重な情報源となり、児童の支援を支えるものとなった。

(3) 通級指導教室の充実をめざして

担当者研究会や月例会等への参加、通級指導教室担当者の相互交流を図ると共に、通級指導教室の運営についての協議やケーススタディ等の研修を通して、指導力の向上を図ることができた。設置校には単独配置であるが、市内に相談できる仲間や場があることが心強く、刺激を受けている。

3 課題及び今後の取り組みの方向性

通級児童は、学ぶ集団や学ぶ環境により、特性の出方や表出する困難さが大きく変化すると、児童と関わる中で感じている。通級児童が、通級指導教室で学んだことを、在籍学級でも自信をもって行い、自分の力が発揮できるようになるには、支援のベースとしての好ましい学級集団・学習環境が必要であり、それらが児童の心身の安定・成長に繋がっていくと考える。指導の効果を高め、通級児童の困り感の軽減と成長を促すために、在籍学級担任や保護者と引き続き連携し、支援の方向性を統一していきたい。

本通級指導教室は開設4年目となり、市内での認知度と理解が広まりつつあり、対象児童や指導内容、通級システム等について問い合わせを受けることも増えている。通級指導について、引き続き情報の発信を行っていくとともに、多様な学びの場の一つとして期待に応えることができるように、通級指導教室担当者として研鑽を積んでいきたい。また、本校は、他校通級児童が増えており、指導時間の調整・設定が難しくなっている。今後も、保護者の送迎や児童が指導に伴って在籍学級を離れる時間などを考慮しながら時間割を作成したり、年間指導時数を検討・決定したりしていきたい。